

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2795200027
法人名	社会福祉法人 なみはや
事業所名	グループホーム桜ノ宮なごみ
所在地	大阪府大阪市都島区中野町1-12-11アロンディール3F (電話) 06-4801-8477

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年11月12日	評価確定日	平成21年12月24日

## 【情報提供票より】(平成21年10月27日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 21 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	15,8 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	8 階建ての	階 ~ 3 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有( ) 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(420,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

## (4)利用者の概要(10月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	4 名	要介護2	4 名			
要介護3	5 名	要介護4	4 名			
要介護5	0 名	要支援2	2 名			
年齢	平均	83 歳	最低	78 歳	最高	91 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	東和病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR桜ノ宮駅近くの名所である大川べりに位置しており近隣にはアパートやマンションが建ち並ぶ8階建てマンションの3階部分にあるホームです。今年1月に開設され当初から利用者の尊厳を守るといふ思いを持ちトイレでの排泄にこだわってオムツ、ゼロに取り組んでいます。食事に於いても自分で食べる事を大切にし、見守ることに徹しており食事が楽しい時間になるように支援しています。また、医療連携体制の基で協力医との連携が密に取れる中で薬を減らすことに力を入れ、薬に頼らないよう日々の暮らしを見直されています。管理者、ユニットリーダー、職員のあつい想いに見守られながら利用者は穏やかな日々をすごされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての評価です。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者が中心に記入したものを全職員の意見を聞き、つき合わせや意見の違いを調整しながら作成し、改善シートに繋げています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員、町会長、包括職員、家族、理事長、職員が出席して2ヶ月に一度開催しています。特に家族からの意見は現場に活かせる様に話し合いサービス向上に活かしています。また、年間の運営推進会議の予定日を出席いただく方々に事前に伝え日程を確保して頂けるようにしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に出席している家族から多くの意見が出され、家族は面会時にもよく希望や意見が話されています。家族からの意見等はできる範囲で即答し、できないことは後日スタッフと話し合い決定した対応を伝えるようにしています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入し行事等の情報もらっています。都島区の区民祭りに利用者が家族と一緒に参加したり、区民作品展を見に行っています。また、桜の宮小学校のPTA合唱団が毎月訪問してくれたり、地域との交流に努めています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者、家族、職員など全ての人の尊厳と関わりを大切にする中で地域へ向けて出て行くと言う事を支援目標に掲げ日々ケアに取り組んでいる。ホーム独自の理念はまだ検討段階にある。	○	開設から一年弱で、法人理念や支援目標をケアの柱として日々支援に取り組まれているが、職員の思いをもとにホーム理念が検討され作られる事を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアの関わりの振り返りの時には、その都度支援目標に立ち返っている。職員の思いがぶれないよう、支援目標に沿うケアを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し情報をもらっている。都島区の区民祭りに利用者が家族と一緒に参加したり、区民作品展を見に行っている。また、桜の宮小学校のPTA合唱団が毎月訪問してくれたり、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者が中心に記入したものを全職員の意見を聞き、ミーティングで意見をつき合わせや調整しながら作成した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、町会長、包括職員、家族、理事長、職員が出席して2ヶ月に一度開催している。特に家族からの意見は現場に活かせる様に話し合いサービス向上に活かしている。また、年間の運営推進会議の予定日を各出席いただく方々に伝えている。		

グループホーム桜ノ宮なごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターとのつきあいが主になっているが、区へは利用者のこと等で相談に出かけたり電話で話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、多くの写真を載せた桜の宮なごみ新聞と、担当職員が丁寧に記入した利用者それぞれの健康状態や近況報告の手紙を添えて送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席している家族からは多くの意見がだされ、家族は面会時にもよく話される。家族からの意見等は即答、または後日スタッフと話し合い決定した対応を伝えるようにしている。		
9	18	有( ) 円) 無 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者を少なく抑える為職員が悩んでいる様子を見受けられる時はユニットリーダーが外食等に誘い話しやすい雰囲気の中でよく話を聞くようにしている。新任の職員には、ベテランの職員がついてホームの理念や想い等を話しながら指導し利用者への影響がないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報は全職員に伝えて、ターミナルケアや人権、レクレーションなど等希望に応じて、また派遣し勤務として受講している。受講者は、伝達研修を行い職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流があり職員の交換研修も行い相互の向上を目指している。今後は都島区の3箇所のグループホームと情報交流の場を作っていく意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が入居を急いでいてもなるべく体験入居を勧めている。入居前の聞き取りは時間をかけて丁寧に行っている。入居後は利用者の状態に気をつけながらサービスを行い、家族とも相談、連絡をとりながらケアをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	役割として調理時の味付けや、おやつを職員と一緒に作るなど日常生活を共に過ごすという意識をもって支援を行っている。重度の方々の役割などの位置付けは難しいものがあるが、職員との関わりの中で支え合いの関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には利用者と家族に面接を繰り返し、思いや希望の把握に努めている。面接台帳に出来るだけ多くの情報を収集し、日々の関わりの中で言葉を記録し支援に繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望や意見を重視し、職員の日々の関わりを反映してケアプランを作成している。看護師や医師の意見を聞き、職員会議で検討しケアプランに反映させている。日々の記録で、ケアプランとケアの連動を全職員が把握するように日誌や申し送りなどの書類に工夫を重ねている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に一度の職員のアセスメント、モニタリングで検討し家族、医師の意見を取り入れ状態変化がなければ3ヶ月に一度見直している。また随時の見直しも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	往診がない眼科や外科等の受診の送迎をしている。希望によって喫茶店に行ったり、個別の買い物にも対応している。また、利用者の入院時にはできるだけ同行している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には今までのかかりつけ医とホームの協力医療機関との選択をいただき利用者と家族がどのような医療を受けたいか聞いている。ホームは医療連携体制の下で、医師、看護師が定期的に訪問されている。また、1ヶ月に一度管理栄養士の訪問があり、糖尿病、貧血等の食事管理も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常に利用者、家族、かかりつけ医、職員と重度化や終末期に向けた話し合いで方針を共有している。看取りの経験もあり、家族には重度になっても必ずしもホームを退去しなくてもよいことを伝えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴染んでくると言葉遣いや態度が友人のようになってくるので、会議等では日々丁寧な対応をするように指導している。個人情報の書類等は事務所で適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時間も決まっておらず朝食も自由に取っただいでいる。生活リズムについても可能な限り利用者の希望されるペースで生活を送っていただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が立てた献立の食材購入をして利用者も出来ることを手伝い職員とともに調理を楽しんでいる。食べたい物がある時は利用者と職員と一緒に買い物に行っている。食事は特に自分自身で食べることを大切にしており「食べたい時に食べたいものを自分で食べる。」を基本に考えている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望時間帯は利用者によって選択してもらっていて午前、午後、いつでも自由である。入浴を拒否をされる利用者には理由を探しながらタイミングを見はからって入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、掃除等を役割としてして行って頂き、元看護師の方は利用者のバイタルサインを測定することを楽しみされている。また、天神祭りの花火を見学し利用者は大変喜ばれました。利用者が今やりたいことを大切に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは大川縁に位置しており、気候の良い時は遊歩道や近くの桜の宮神社にはよく散歩に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニット毎の施錠はされているが職員は常に利用者の様子を察知しユニット間を自由に行き来している。また、職員は鍵を掛ける事の弊害も理解しており、利用者が日中希望があれば随時戸外へ出かけられるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署へ出向いて今後の避難訓練等について相談している。職員間では災害対策を検討、ミーティングを行っているが、まだ一度も避難訓練等は実施されていない。	○	今後、マンションの入居者や運営推進会議を通じて避難訓練の重要性を話され見学、参加を得て実施されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取水分量、食事量を記録している。利用者の状態に合わせて刻み食、ミキサー食、とろみ等の対応している。また、定期的な管理栄養士の訪問によってより適正な食事指導がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望でユニット間の行き来が自由にでき活動範囲が広く、ホームからは大川縁の桜並木の見事な紅葉が手に取るように見られる環境である。定期的に訪れるボランティアの方の絵手紙教室での作品、栗、もみじ葉がリビングに飾られ秋を演出している。またキッチンがオープンな作りになっていて調理中の様子、匂いが漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴染んだテレビや小ダンス、イスを持ってこられており、入居者の希望に応じて畳敷きにも対応して居心地のいい居室が作られている。入居後も家族に相談し、居室への工夫がなされている。		